

■自由投稿

「丹波黒豆を作って20年」

湯川 好満 (11期)



丹波市で農生活を始めてから20年目になります。農家の好意で草刈りを条件に一反半の畑を借りて丹波の名産、丹波黒大豆を主に作っています。

初期の頃は猪の心配は何もなく普通に耕作していました。数年たった頃にジャガイモを20m、二畝植えた収穫前に、畝の真ん中を溝を掘ったように掘り起こされて、ジャガイモは全滅でした。

サツマイモも一畝、7月のまだ小さい実の頃、同様の目に遭いました。ご近所からは随分早く収穫したね、と勘違いされました。

それ以後は20mのネット2枚で四角に囲い、その中で植えることにし猪の被害は無くなりました。

丹波黒豆は6月10日頃に種を蒔いて13日後に苗を移植します。以前、白大豆を直播したら発芽しないので2回程蒔き直しをしましたが、発芽したての芽が鳥に食べられているのがわかりました。それからは苗を移植する様にしました。

直播で「鳥の忌避剤(商品名:きひゲン)」を種の周囲にまく方法もありますけど結構手間がかかります。

7月中頃には草の丈が黒豆を覆うようになるので、畝間の草刈りをして枝葉に太陽光が当たるようにし、枝の倒伏を防ぐために土寄せします。

8月8日頃に小さな紫色の花が咲き、一か月間、次々に花が散り咲きを繰り返します。その中の一部分が実になり、9月9日頃に莢になります。

10月に入ると莢の実がふくらんできます。我が家では10月25日頃にパンパンに膨らんだ頃に収穫します。JA等では10月10日頃に早めに販売しています。

11月に入ると豆の色が赤紫に変わります。黒豆の色は青→赤→紫→黒と変化して12月に入ると黒大豆になり、正月用の丹波黒豆として有名です。

我が家では、11月に入った頃の赤紫の豆が、歯ごたえがあり甘みが増えて大好物です。

去年は黒枝豆100kg、黒豆40kgを収穫しました。マンドリン仲間や尺八仲間にも安くあげて、収穫した黒豆は全部さばいています。

虫は豆類が好物で、7月から8月に樹葉を元気にするために、葉に虫がこないよう「ストちゅう(酢と30度以上の焼酎と煮詰めた唐辛子液を水に混ぜたもので殺虫剤ではない)」を散布、9月から10月に実が入った頃にも虫よけに「ストちゅう」を散布しています。連作障害を防ぐために気を使います。

ほかには、毎年ニンニクや空豆も栽培して楽しんでいます。黒ニンニクは古くなった炊飯器の保温で2週間かけて、発酵でなく完熟させます。昔の炊飯器は保温が96時間(4日連続)ですが最近のは二日位で切れてしまいます。

田舎暮らしや農業は元気でないと出来ないし、楽しくありません。

これからの農業は若い人が増えていくように、また働く若者が経済的に安心感の持てる雇用で、夫婦二人で頑張る気持ちになれるようにすることが、第一の少子化対策になると思います。我慢を強いる一方で、一部の儲けに金をつぎ込む政策は少子化対策に逆行しているように見えます。

命あつての世の中だと、最近つくづく思うようになりました。

